夢窓幼稚園通信第44号

2018年　10月2日

10月になりました。
新しい月を迎え、カレンダーの新しいページを前にすると、山盛りのスケジュールを思い浮かべつつ、「今月はどんなドラマが待っていてくれるのかな?!」と、わくわくします。
おひさまの光の強さや照らし出される野山の色も、流れてくる風の音や土の湿り具合も……、みんな前の月とは違ってきます。
小さなアリや空をゆったりと飛ぶ鳥になれるなら、移りゆく季節の変化をおそらくもっともっと感じることができるのでしょうが、私たちはそうはなれないとしても、与えられているイマジネーションの力を使って、感覚の限界を超えて、周りの世界や私たちの心の中に拡がる世界をゆたかに受けとめていたいと思います。
目の前に現れる風景、生まれてくる出来事、浮かんでくる思い……に、自然と期待や憧れの気持ちが寄り添います。
今私に示された新しい表情をした景色や事柄の中には、自分が探し求めていたものにつながるヒントや道が、もしかしたら隠されているかもしれません。

大気が澄んでくる秋10月を迎えると、いつもそんなふうに思います。
皆さんそれぞれの、そして夢窓の今年の10月はどんなでしょうか!?

さて、話は変りますが、この9月に幼稚園のホームページを新しく作り替えました。
「園の概要」のコーナーには、あらましですから、住所や創立の時期などが表にしてあるのですが、そのひとつの項目に「保育項目」があります。
「運動あそび」とか「絵画」とかと普通は中身を端的に書くらしいのですが、どんなふうに子どもたちは体験しているのか、体験してほしいのか、紹介したいと思い、短い言葉を添えてみました。
こんな感じです。

保育項目
うれしく歌うこと、まごころで話すこと、耳を澄ましてきくこと、伸びやかに身体を動かすこと、たのしく絵を描くこと・作ること、よくかんで食べること、思いめぐらすこと、皆で力を合わせること……など。

秋は形容詞や形容動詞、擬音語や擬態語、様子をそっと示すような言葉が、よく似合っている気がします。

すがすがしい青い空の下で、心静かに耳を澄まして穏やかに周囲を眺めていると、凋落や枯れていく生命の表現の相の中にさえ、変化していく生きるものの輝きに出会え、何かを表現したくなるのかもしれません。
そんな秋に身を置いて、私たちは「ただ歌う」のではなく、「うれしく歌いたい」のです。ただ話すのではなく、心をこめて話したいのです。
子どもたちは世界と自分の掛け橋として、周りの大人たちの姿をお手本としていつでも吸い込んで真似て生きています。
私たちはあらためて今、ゆたかな形容詞文化の中を生きたいと思います。
うれしく歌い、耳を澄まして聞き、伸びやかに身体を動かして過していたいと思います。

人が物を考えるとき、物事の意味を心から探し求めようとするとき、その前に必ず「驚き」があるのだ！と、遠い昔から言われてきました。驚きのない思考は、それがどんなに高度な内容に見えたとしても、ただの思考のあそびに過ぎないというのです。
「思考は驚きの中で根源的に存在している」のです。
私たちは秋から冬へ向かう季節の中で、深いふかい思考体験をしていきます。
季節のささやかな変化を、驚きの中で迎え入れ、その生きいきした姿を形容できる私たちでありたいものです。

「秋と共に過ごすそれぞれの私」が、よろこびあふれるものでありますように！

・・・あらしの夜に・・・

園長 弁光泰雄

予感と憧れに誘われながら
みずからの深みへ降りていく。
おのれを省みながら
自分を夏の日の贈り物と感じる。
今私は秋の季節に　萌える芽となり
魂の熱い力となって生きる。
（RS『魂のこよみ』10月Ⅰより）